

<2018年3月期第3四半期 決算説明会 主な質疑応答>

日時 : 2018年2月2日(金) 18:00~18:45  
出席者 : 富永浩史 取締役 常務執行役員 CSO/CIO  
岩本秀之 取締役 常務執行役員 CFO

3Qに発生した一過性要因の損益はどれ位か

金属本部でマイナス、機エネ本部でガス事業売却益のプラスが発生したが、全社の3Q当期利益へのインパクトはネットで10億円程度のプラス。

3Q累計で当期利益の進捗は9割を超過しているが何故上方修正をしないのか。4Qに何か一過性損失の発生を想定しているのか

為替・市況の動向等、不確定要素も多く、きっちりとした予想数値が出せないことから、上方修正は行わなかった。現時点で4Qに一過性のマイナス要因発生は見込んでいない。

金属本部の好調要因について

金属本部は市況が良いこともあり、全地域・全商品で好調に推移しているが、米国経済は今夏頃からダウントレンドが始まる可能性があるかと予測している。

金属本部の一過性要因である関税影響の内容は

新興国で、関税に関するアセスメントが発効された。金利累積の回避目的等で、一旦支払いを実施するとともに会計処理を行ったもの。当期利益に与える影響は▲20億円程度。

リチウム拡張がリリースされたが、現状のリチウム事業の利益水準と拡張による増益イメージは

事業全体としては、この3Qでフルキャパでの生産が可能となり、収益貢献も今期から始まっている。3Q累計で持分利益やトレーディング利益等で約10億円の利益。拡張については、2020年迄に17,500tから42,500tまで増やす計画。新たなプラントをイチから作る訳ではなく、ポンド(採掘池)の拡張は比較的容易なため、時間はさほどかからない。現状の市況が継続すると仮定した場合、年間で約40~50億円の利益貢献を見込んでいる。

パートナーであるリチウム資源開発会社Orocobre社への第三者割当増資を引き受けた背景は

他社による買収懸念を回避することが一番の目的。尚、増資した資金は当社のアルゼンチンでの事業に還流する付帯条件となっている。

向こう 3 か月の自動車生産計画についての感触は

トレンドは不変。好調継続と認識する。

グロロジ本部が好調な理由は

IMV、C-HR 等好調でモデルミックスが良くなった為。またトヨタ以外でマツダ、スズキ等の取扱いが増えたことも一因。

機エネ本部の好調要因はユーラスエナジーか。ユーラス以外で好調な事業は

好調の主要因はユーラスエナジーで増益の 6 割程度を占める。冬は風況も良いため、4Q も堅調に推移すると予測している。尚、車輛設備等も好調であり、足元で悪い事業は特段無い。

化エレ本部は 3Q だけ見ると前年比業績がスローダウンしていないか

3Q にデバイス事業で過去の取引金額の修正影響が含まれていることが要因であり、実態としては好調と認識している。

アフリカ本部における各事業の状況は

自動車事業は、非資源国であるコートジボワール、セネガル、ブルキナファソ等については引き続き好調。カメルーン、ガボンも引き続き苦戦しているが、ナイジェリア、コンゴが底を打った感有り。飲料事業はコンゴ国の経済環境の悪化に加え、競合の影響から落ち込み。またテクノロジー事業でも前年比減益となった。総括すると自動車、医薬で上振れ、飲料、テクノロジーが下振れとなりアフリカ全体では略々横ばい。

米国税制改正の影響はどう考えたらいいか

減税によるプラス効果と繰延税金資産取崩しのマイナス効果で、今期の影響は略々ゼロを見込む。来期以降は減税効果によるメリットが発生する予定。

以 上